

KAZUTOSHI SAKURAI

桜井和寿

人気ロックバンド Mr.Children のヴォーカル。何気ない日常から、曲と言葉を紡ぎだすシンガーソングライター。彼の声、そして彼が作り出す音楽に多くの人が元気をもらっていることだろう。

みんなのヒーロー、桜井和寿の日常は、家には奥さんと子供がいて、スタジオにはバンド仲間やスタッフがいて様々な人とともに過ぎていく。そんな暮らしの中で、ふと思いつくメロディをボイスレコーダーに録音する。歌詞の元になる言葉も、日頃から肌身離さず持っているメモ帳に書きなぐっている。

こうして彼の音楽のほとんどはメロディが先にできて、あとから歌詞をのせるのである。

桜井作品の神髄はそこにある。本人いわく「衝動をかきならしたい」だそうだ。だから彼が日頃メモしている言葉もその意味よりも、どう発したいかを大切にしている。例えばこんな風に

ヒーローになりたい

これを見るとヒーローじゃなくても、何かになりたいと強く思ったような気さえる。

リスナーに意味よりも感情、衝動をもっと知ってほしいと考えた桜井は次のアルバム制作であることを思いつき、レコーディング以外はひとりになるために部屋を買って数ヶ月間そこで過ごすことにした。

場所はレコード会社トイズファクトリーやスタジオに近い東京都渋谷区。数ヶ月だけということもあり、できるだけ安いところを探した。



JR 山手線渋谷駅から徒歩 5 分
間取り ワンルーム
専有面積 17.48m²(壁心)
築年月 1978 年 9 月
物件価格 840 万円
建物構造 SRC(鉄骨鉄筋コンクリート)



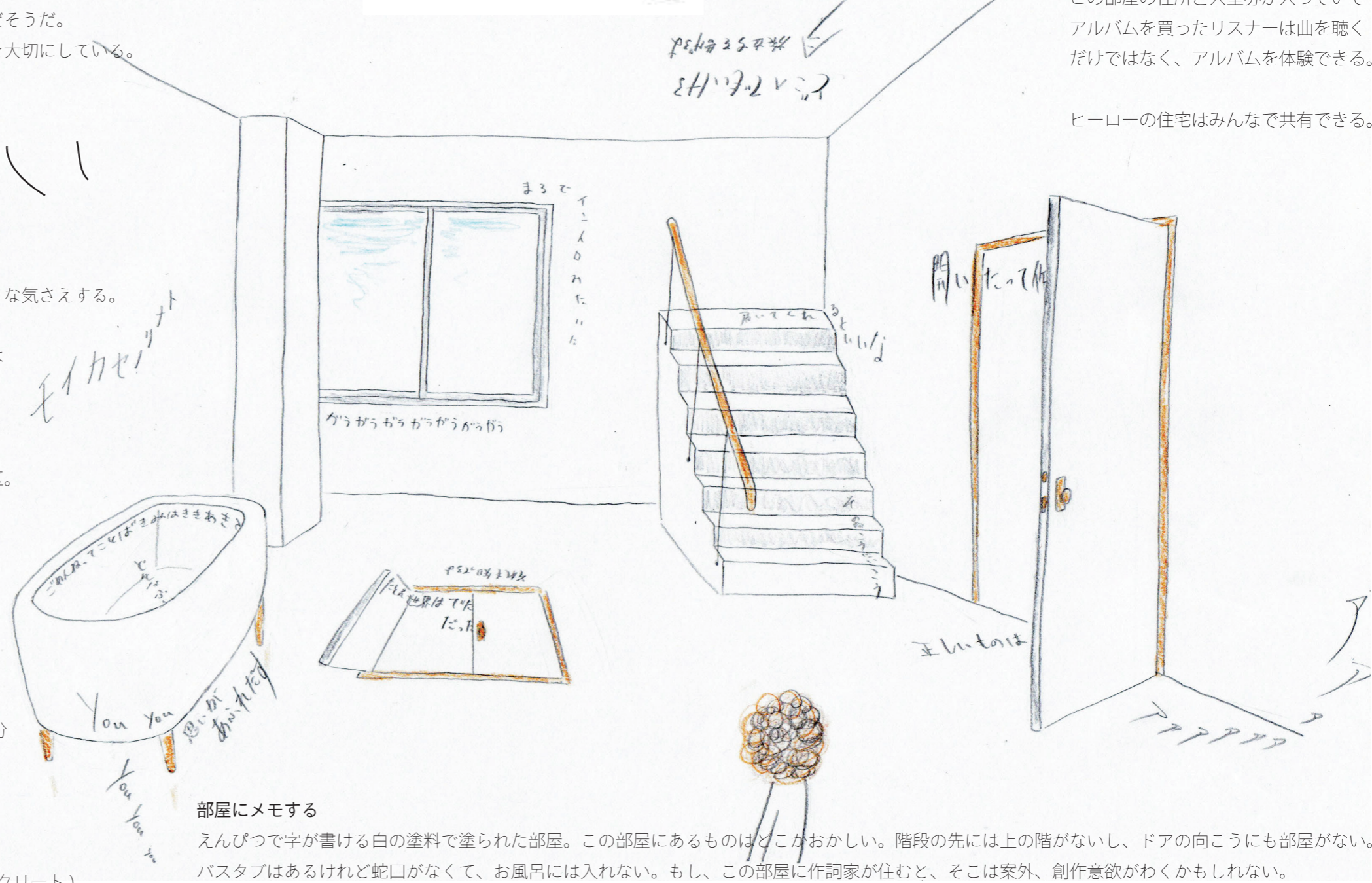
桜井は小さなワンルームに階段やドアなど多くの日常をつくり、歌詞を考えるのに役立てた。

小さなワンルームなので当然、階段やドアはその本来の役割をはたせてない。

階段やドアに書かれている言葉は桜井がどこでどんなことを考えながら生活したのか感情と衝動に満ちている。

そうしてできたニューアルバムにはこの部屋の住所と入室券が入っていてアルバムを買ったリスナーは曲を聴くだけではなく、アルバムを体験できる。

ヒーローの住宅はみんなで共有できる。



部屋にメモする

えんぴつで字が書ける白の塗料で塗られた部屋。この部屋にあるものはどこかおかしい。階段の先には上の階がないし、ドアの向こうにも部屋がない。バスタブはあるけれど蛇口がなくて、お風呂には入れない。もし、この部屋に作詞家が住むと、そこは案外、創作意欲がわくかもしれない。「階段の先…。ドアの向こう…。このバスタブに水があったら…。」きっと色んなことを想像して言葉にする。その言葉を紙にメモするのではなく、部屋にメモする。自分がどんな場所で、どんな気持ちでそれを書いたのか、言葉とともに日々の生活もメモされる。